

はずかしい気持ちを隠した

宿題や予習復習が手につかない。

クラブ活動はやるが、気持ちが浮いている。英語の通信添削も遅れてくる。

それなのに、僕は、自分で好んで、女性の悩みごとまで、取り込んだ。

一体、僕は、なにをどうしたいのだろうか。

数日がたち、二十二日（月）の朝だった。

後悔の気持ちで落ち込みながら、いつもの様に、三条京阪の南口の改札口を出た。

そして、僕はバス停の方へ歩いた。

すると、ベンチに、数人の女生徒と笑いながら、

何もなかった様な顔でなごやかに喋っている彼女の姿があった。

「やっと、会えた。」

「いや、これは会えたとは言えない。」

自分の情け無いのが身にしみるほど感じた。

一瞬、彼女と視線があった。